

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 123号

2014/12/15 発行
株式会社 立花商店
西岡 あずさ

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き

① 最高：3月 LDN 市場 £ 1949(12/9)/ 3月 NY 市場 \$2952 (12/9) 先週比 **LDN +£ 18/NY +\$56**
② 最低：3月 LDN 市場 £ 1882(12/12) 3月 NY 市場 \$2854 (12/11) 先週比 **LDN -£ 13/NY +\$2**
週内価格差額 (①-②) : LDN 市場 £ 67 (傾向↑) / NY 市場 \$98 (傾向↑)
週内建玉推移 : LDN 市場 224,809 枚(12/5 終了時)⇒221,343 枚 (12/11 終了時) **-3,466 枚**
NY 市場 180,803 枚(12/5 終了時) ⇒187,624 枚 (12/11 終了時) **+6,821 枚**

	2014/12/8(月)		2014/12/9(火)		2014/12/10(水)		2014/12/11(木)		2014/12/12(金)	
	LDN	NY	LDN	NY	LDN	NY	LDN	NY	LDN	NY
14-Dec	1980	2937	1999	2986	1999	2975	1922	2888	1909	2891
15-Mar	1932	2903	1949	2952	1938	2933	1882	2854	1888	2857
15-May	1918	2891	1933	2935	1924	2917	1874	2845	1879	2846

2、コートジ：カカオ豆、12月7日までに532,000トンが港に到着 (12/8)

輸出業者の見込みによると、コートジではシーズン開始の10月1日から12月7日までの間で532,000トン近くのカカオ豆が港に到着したとみられる。この数値は昨シーズン同時期の609,000トンから減少している。

彼らによると12月1日から7日までの間に、62,000トンのカカオ豆が西アフリカのアビジャン港とサンペドロ港に輸送されたが、こちらも昨シーズン同時期の91,000トンから減少している。

3、アジア：市場は不活発、2015に向かって軟化 (12/8)

アジアのカカオ市場は数週間にわたり不活発で、2015年まで下落を続けるとみられる、とトレーダー。カカオバターレシオは17ヶ月低調が続き、カカオパウダー価格も磨砕業者のふくらんだ在庫により押し下げられている。

ケーキやビスケット、ドリンクに使用されるカカオパウダーの現物在庫は依然重く、シンガポールに拠点を置くトレーダーによると、トンあたり 2 週間前では\$1800-\$1900 であったところから、\$1700-\$1900 まで下落しているという。「市場参加者の欠如で、市場は不活発である。緊急の取引が無く、売りが難しい状態にある」とロイターに語った。ハイグレードパウダーはトンあたり\$2300-\$2400 で販売されていたが、「磨砕業者にとっては魅力的でない」と続けた。

磨砕の際、カカオ豆からおおよそ同量のカカオバターとカカオパウダーが作り出される。磨砕業者はそのカカオバターとカカオパウダーの在庫量を明らかにしない。

トレーダーによると、チョコレートに口どけを与える目的でのカカオバターの需要は安定していて、世界のチョコレート消費量は今年 1-2%増加しているという。需要の指標となるカカオバターレシオはロンドン作物価格に対して 2.07-2.1 で、2013 年 7 月ぶりの低値である。

磨砕業者は 4-6 ヶ月分相当のカカオパウダー在庫を抱えており、1 ヶ月分しか保有していなかった数年前と比較し高水準にある、とトレーダー。

昨今のアジアにおける磨砕キャパシティの増加にも関わらず、実際のカカオ磨砕スピードは 2 四半期以上にわたりペースダウンしている。

チョコレート需要の指標となるカカオ豆磨砕量は、アジアカカオ協会によると 4 月-6 月の 161,805 トンから 7 月-9 月は 151,643 トンに落ち込んでいる。

「パウダー在庫は減少してきてはいるが、まだ十分な速度ではない。おそらくあと 1 年以上経たないと、皆にとって好ましい水準にまで減少してこないだろう」とトレーダー。

来年は磨砕業者にとって厳しい 1 年になると言われている。なぜなら生産量減少への重圧が、トンあたりのコストの高騰を意味するからである、と別のトレーダー。「たとえ磨砕量を減らしたとしても毎月のココアパウダーの在庫は月々増えていく可能性があるため、来年を持ちこたえるには多くの運転資金が必要になるだろう」と続けた。

インドネシア産カカオ豆の輸出関税は変わらず今月も 10%で、提供されるカカオ豆の品質からみると比較的高く設定されており、取引と業界に対して勢いを弱めている、と他のトレーダーは語った。インドネシアの主な栽培地域であるスラウェシ島から輸出されるカカオ豆は、先週の業界データによると、昨年の 6,038.32 トンから、11 月には 69%減の 1,892.19 トンとなっている。インドネシアは世界第三位のカカオ豆生産国である。世界トップの二ヶ国であるコートジとガーナは、何年かにわたる豊作により樹木が疲弊し、その影響を受けた今シーズンの低調な滑り出しから持ち直すのに困難を強いられそうである。

4、コートジ：降雨と日照がカカオ豆の成長促す (12/9)

コートジのカカオ栽培地域の大半にもたらされた日照まじりの降雨が、メインクロップの育成を促進すると農家やアナリストらが語った。

しかしながら、ハルマタンシーズンの接近による 1 月前からの品質の低下とタイトな供給という不安も含んでいるという。ハルマタンは通常 12 月から 3 月にかけてサハラ砂漠から吹く砂まじりの乾いた風で、カカオ豆の栽培に悪影響を及ぼす。

2014/15 期のメインクロップの収穫は 10 月 1 日から始まり、農家は 1 月末までの品質の良いカカオ豆の豊富な収穫を期待している。

ココアベルトの心臓部である Soubre 地区の西部では、過去数週間で複数ヶ所に降雨があり、3月までの豊作への期待を増幅させた。カカオ農家は十分な降雨と長い日照を良好な成長のために必要としている。「今年は天候に恵まれている。昨年よりも十分な量の収穫があるだろう」と Soubre 地区郊外の農家 Kouame 氏。「小さなポッドが乾季まっただ中になる前に十分に成長して嬉しい。向こう数ヶ月大量のカカオ豆が収穫できるようになる」と続けた。

同様の生育状況が Duekoue 地区の西部でもみられ、今月から1月中旬までの間にメインクロップの大半は出荷できるだろう、と農家は話す。「木々には大量のポッドが実っている。販売するカカオ豆の数量は増加し、1月中旬まで続くだろう」と Duekoue 地区近郊の農家 Amara Kone 氏。「ハルマッタンとその乾燥した風が激しくなければ良いが」と続けた。

しかしながらコートジボワールの4分の1の生産量を誇る Daloa 地区の中西部では、3週間連続で雨が降っていない。「1月からこの地区で出来るカカオ豆の数量は減少していて、もし温暖で乾燥した気候が続けば、2月以降のカカオ豆の品質に影響を及ぼすだろう」と Daloa 地区の農家 Attoungbre Kouame 氏。

Aboisso 地区の北東部では、シーズン開始時期におけるブラックポッド病の蔓延により、来年以降の供給量がタイトになることが予測されている、と農家。「もし今月に十分な降雨がなければ、1月の終わりからの生産量は大幅に減少してしまうだろう」と Etienne Yao 氏は続けた。

5、ナイジェリア：米国使節団、カカオ栽培への投資を助言 (12/8)

ナイジェリアの米国総領事 Jeffery Hawkins 氏は、ナイジェリアの生産減少を受け、カカオ栽培へのさらなる投資の必要性を述べた。

Hawkins 氏はラゴスで開催された、国際開発の米国政府機関、サステナブル・トレード・イニシアチブ、アフレキシム銀行、オーラム社による『ナイジェリア・ココア・インベストメントサミット』において、ナイジェリアが早急にかつてのポジションに戻るためには、農業部門の発展が急務であると述べた。「ナイジェリアは、カカオの世界的な需要が増えていることと、それによりナイジェリア農家にとって巨大な好機があることを知るべきである。」

Hawkins 氏は、2020年までにカカオが不足するという最近の予測についても言及。地方及び世界的な消費に対するカカオ豆の生産を加速するため、近代的な支援提供ときっかけ作りをカカオ農家に与えることを政府に急がせた。「農業はナイジェリアの若者の雇用の創出、また人々にとって生計を立てることが可能な手段とは長らく見なされていなかった」と語る。

農業地方開発省のココアバリューチェーン開発チームのリーダーである Peter Aikpokpodion 氏は、ナイジェリアはカカオ開発の好機に気が付いているという。彼によると、カカオの世界的需要は2020年までに500万トン以上に到達する見込みであるという。「米国では、チョコレートの消費量は2009年から2014年までに年間平均1.4%ずつ成長しており、次の5年間でさらに成長すると期待されている。向こう数年の農業輸出で最も成長するとみられるのは、カカオ、カシュナッツ、ゴマである」と続けた。

政府はナイジェリアのカカオ豆生産の強化をするため、3本の矢政策を打ち上げた。政策は現状活用されている650,000ヘクタールのプランテーションのカカオ豆生産量を最大化し、さらに200,000ヘクタールを回復させカカオ栽培地域を広げることを目的としている。

6、カーギル社、アジア市場拡大に備え、カカオ製造施設を新設 (12/10)

アジア消費者のチョコレートとカカオ製品の需要増加に対応する方法を模索している食品・飲料メーカーは、インドネシアの Gresik におけるカーギル社のカカオ製造施設の設立によってもたらされる高品質のカカオパウダーの供給拡大により利益を得られるだろう。

1 億米ドルの同施設は 300 以上の新規雇用を創出した。70,000 トンの製造キャパシティを持ち、高品質カカオマスやカカオバターはもちろん、カーギル社のプレミアムブランド Gerkens ココアパウダーを製造する。この施設のブレンド能力は同社の幅広く深いカカオの知識を活用し、アジア消費者の味覚にかなうような高水準でオリジナルなソリューションをもって、顧客に利益をもたらす。

East Java 地区の最新鋭の施設のオープニングには、インドネシアの産業省 Saleh Husin 氏と David MacLennan 氏、カーギル社社長と CEO が出席。セレモニーにはカーギルココア&チョコレートビジネスの会長の Jos de Loor 氏、現地の高官及び顧客が出席した。

「お客様は我々に革新と製品価値の増幅を期待しており、この投資は彼らの成功に主眼をおいたものである」と Jos de Loor 氏。「1995 年からインドネシアのカカオ事業へ出資してきており、持続可能な農業生産のサポートと、同国へのカカオ調達の責任に注力してきた。我々は、政府、コミュニティー及びパートナーと、長期的なインドネシアのカカオ産業の構築に関して協働してきた。」

Gresik の工場に納められるカカオ豆は Sulawesi から優先的に調達される。ここは 1995 年から同社が出資しており、カカオ農業が幾千もの家計の主な収入になっている地域である。同社はカーギル・ココア・プロミスのひとつとしてインドネシアにおける持続可能なカカオ生産のサポート活動を強めており、農家やその家族、コミュニティーの生計を改善することに取り組んでいる。

同社は 4500 人のカカオ農家をトレーニングし、Bone 県と Soppeng 県の農業学校を新しく作ることを計画している。そのうちの 2000 人が独立持続可能証明書を手に入れることを目的としている。これはスイス経財省経済事務局 (SECO)、持続可能取引戦略 (IDH)、オランダ大使館 (EKN)、スイスコンタクト、そして一般企業らにパートナーシップによって構成された持続可能ココア栽培プログラム (SCPP) が、南 Sulawesi 州の Bone 県と Soppeng 県にトレーニングと技術的支援を提供することをサポートしている。

インドネシアにおける新施設と出資拡大のオペレーションは、カーギル社の既存のカカオ供給オペレーション及び製造施設の世界的ネットワークを強める。過去 40 年間にわたってビジネスの実績があり、今日では家畜栄養、カカオ、穀物、オイルシード、パーム油、コプラ、砂糖の分野で 12,000 人以上の雇用を創出しているインドネシアにおいて、この投資に同社のプレゼンスをさらに高めることになる。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp